文化庁 観光拠点整備事業（地域文化財総合活用推進事業）

日本遺産「里沼」を歩く①
―「祈りの沼」・茂林寺沼散歩―

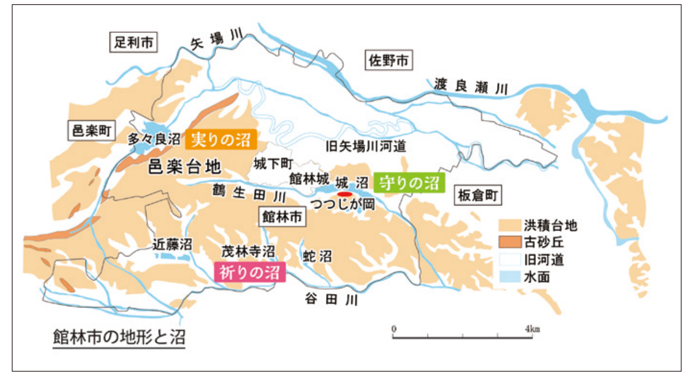
館林市「日本遺産」推進協議会

令和元年度文化庁「日本遺産」認定

里沼（SATO-NUMA）―「祈り」「実り」「守り」の沼が磨き上げた館林の沼辺文化―

日本遺産 JAPAN HERITAGE

日本遺産とは平成27（2015）年度に文化庁が創設した制度であり、地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化や伝統を語るストーリーを、日本遺産として認定するものです。令和２（2020）年度までに全国104件が認定されています。



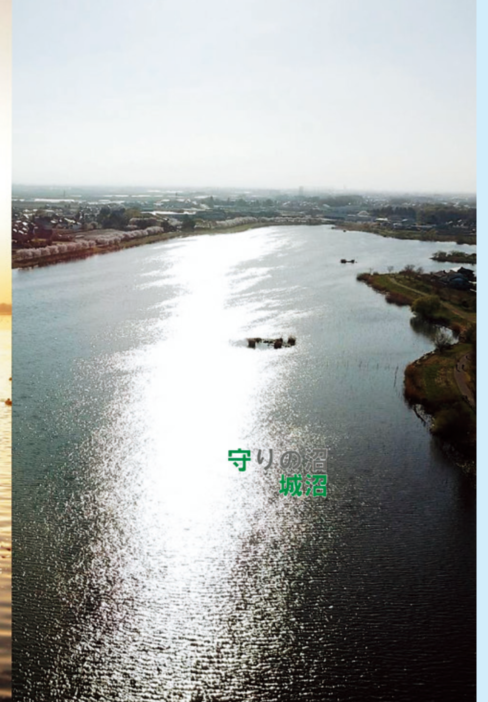
館林市の地形と沼

《ストーリー概要》

関東の山々が一望できる館林では、今も多くの沼と出会うことができる。館林の沼は人里近くにあり、「里山」と同様に人々の暮らしと深く結び付き、人が沼辺を活かすことで良好な環境が保たれ、文化が育まれてきた「里沼（SATO-NUMA）」であった。館林の里沼は、沼ごとに特性が異なる。その歴史を紐解くと、里沼の原風景と信仰が共存する茂林寺沼は「祈りの沼」、沼の恵みが暮らしを支えた多々良沼は「実りの沼」、館林城とつつじの名勝地を守ってきた城沼は「守りの沼」と言い換えることができる。館林の里沼を辿れば、それぞれの沼によって磨き上げられた館林の沼辺文化を味わい、体感することができる。

【里沼（さとぬま）】

沼は、古代・万葉の頃には「隠沼（こもりぬ）」と詠われ、水辺の草木に囲まれてひっそりとした佇まいを持ち、人を寄せつけない神聖な場であった。いつしか、人々が沼に近づき集う中で、暮らしと結びつき、沼と共生した生業や文化が生まれ、沼は「里沼」となった。里沼は、自然と暮らしが調和した生活文化を今に伝える、我が国の貴重な財産である。新田開発や近代化の波にもまれ、各地から沼が消え去りつつある今、館林では、時を重ねながら、それぞれの特性を磨いてきた、希少な里沼を見ることができる。



「祈りの沼」～里沼の原風景を残す茂林寺沼～

- かつて、河川や沼の水辺には湿地や湿原が広がり、その周りには平地林が見られた。沼や湿原には、鯉や鮒、トンボなどの水生動物や昆虫、菱や藻などの水草や湿原の植物が生息し、沼辺の平地林は狸や蛇、野鳥などの棲みかとなっていた。このような水をとりまく自然環境は、平野の都市部では開発によってほとんど見られなくなっている。しかし、周辺が宅地化された今も、茂林寺沼にはその原風景が残されている。沼辺にはコウホネ、カキツバタ、ノウルシなど希少種の植物が自生し、関東地方でも数少ない貴重な低地湿原となっている。
- 茂林寺沼には、なぜ今も原風景が残っているのか？そこには、600年前に開山した古刹・茂林寺の存在がある。沼の畔に曹洞宗の信仰の拠点「祈りの場」が生まれることにより、人々の自然を畏怖する気持ちが高まり、「祈りの沼」としての静謐さが受け継がれてきた。いつしか人々は、その沼を茂林寺沼と呼ぶようになった。そして、寺に伝わる貉（狸）の古譚「ぶんぶく茶釜」のなかで、和尚が貉の化身であったり、狸が茶釜に化けるなど、人と動物とのかかわりが今もユーモラスに語り継がれている。
- 茅葺き屋根の本堂や山門をもつ茂林寺は、その葺き替えに沼茅（葦）を利用してきた。人々は繁茂する葦を刈ることで沼の生態系を維持し、茂林寺沼は「里沼」として人との共生が保たれてきた。今も人々の祈りの姿が途絶えることのない寺と、希少な動植物の棲みかの沼との共存が図られている。

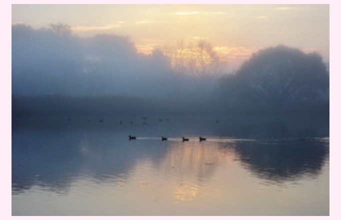
日本遺産「里沼」構成文化財〔茂林寺沼周辺〕

❶ 茂林寺沼及び低地湿原

群馬県指定天然記念物

館林市の南部にある周囲約１kmの沼とその周囲に広がる低地湿原。なかでも低地湿原は関東平野に残る数少ないもので、今も自然環境を良好に残す。希少種のコウホネやカキツバタなどの水生・湿原植物、トンボなど湿原の貴重な動物が生息し、古刹・茂林寺とともに「祈りの沼」の景観を醸し出している。

茂林寺沼　四季の風景



自然豊かな茂林寺沼では、四季折々で美しい風景を楽しむことができます。

（写真提供：大朏輝一氏）

Noは、日本遺産「里沼」構成文化財の番号です。

❷ 茂林寺（分福茶釜）

未指定（建造物）

応永33年（1426）、茂林寺沼の畔に「祈りの場」として開山した寺院。江戸時代の茅葺屋根の本堂と山門があり、茅は茂林寺沼の葦が使用されてきた。貉（狸）の化身である守鶴がもたらしたという茶釜「分福茶釜」が伝わり、明治時代の巖谷小波の童話で全国に知られるようになった。山門前には狸像が並び、境内には童話を伝える巖谷小波の詩碑がある。さらに茂林寺には、この寺が天皇の祈願所となっていたことを示す史料「後柏原天皇綸旨」も残されており、茂林寺沼が古くから「祈りの沼」であったことがわかる。

〔＊右写真は分福茶釜と巖谷小波の詩碑〕

❸ 茂林寺のラカンマキ

群馬県指定天然記念物（植物）

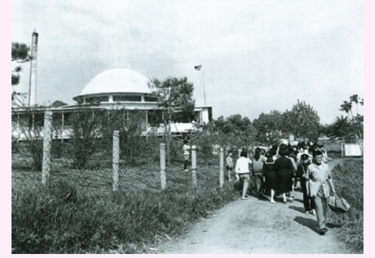
「里沼」の原風景が良好に残る茂林寺の本堂前には一本のラカンマキ（羅漢槇）がある。樹齢約600年、樹高14mもある巨木で、ラカンマキとしては群馬県内でも数少ない名木である。応永33年（1426）の茂林寺開山とともに植えられたと伝えられている。ラカンマキの葉は先端が尖っているため、魔除けの意味が込められているとも言われる。奇しくもラカンマキの花言葉は「慈愛」。すべてを慈しみ愛する様子そのままに、茂林寺沼の周辺が「祈りの場」となった歴史を伝える、貴重な文化財である。

❹ 堀工町のどんど焼き

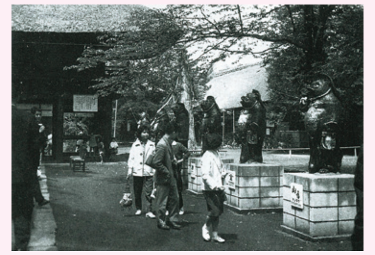
未指定（年中行事）

江戸時代から続く年中行事で、茂林寺沼近くにある熊野神社の神事のひとつであった。現在は地区の行事として、毎年１月15日に近い日曜に、地元の堀工町ふれあい広場で行われている。古いお札やだるまなどを焚いて１年間の無病息災を祈る。お焚き上げのヤグラは、茂林寺沼で刈った葦やナスガラなどを積み上げて作られている。茂林寺沼湿原の土地の一部は熊野神社の所有地にもなっており、どんど焼きの際に使う資材を採集・確保する目的があったと考えられている。茂林寺沼が人々の祈りや願いと密接に関わりあう“祈りの沼”であったことを今に伝えている。

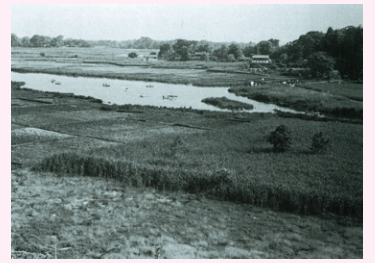
里沼クロニクル　～茂林寺沼今昔物語～



旧分福ヘルスセンター
昭和32年（1957）茂林寺沼北岸に入浴施設と遊園地を備えた分福ヘルスセンターが開園した。ローマ風呂と呼ばれた大浴場が人気で、茂林寺参拝と同時に多くの家族連れや団体客で賑わいを見せた。



茂林寺境内たぬき像
参道両脇に22体、山門隣に３体、全25体のたぬき像がある。中でも来訪者の目を引きつける巨大像１体は昭和35年（1960）に東武鉄道㈱から寄贈された。



沼でボートを楽しむ人達
茂林寺沼とその周囲の湿原は、昭和35年（1960）に群馬県天然記念物に指定された。写真はその２年後のもので、沼には無数のボートが浮かび、茂林寺沼の豊かな自然を楽しんでいる様子がうかがえる。

茂林寺本堂 宝物館 日本遺産「里沼」展示 コーナー

分福茶釜伝説の茶釜のほか、“祈りの沼”＝茂林寺沼のストーリーをパネルで展示中！

■場　所：茂林寺本堂 宝物館
（群馬県館林市堀工町1570）
■時　間：9～16時 (木曜休/不定休)
■見　学：大人300円/子ども150円
■問合せ：茂林寺
ＴＥＬ：0276-72-1514

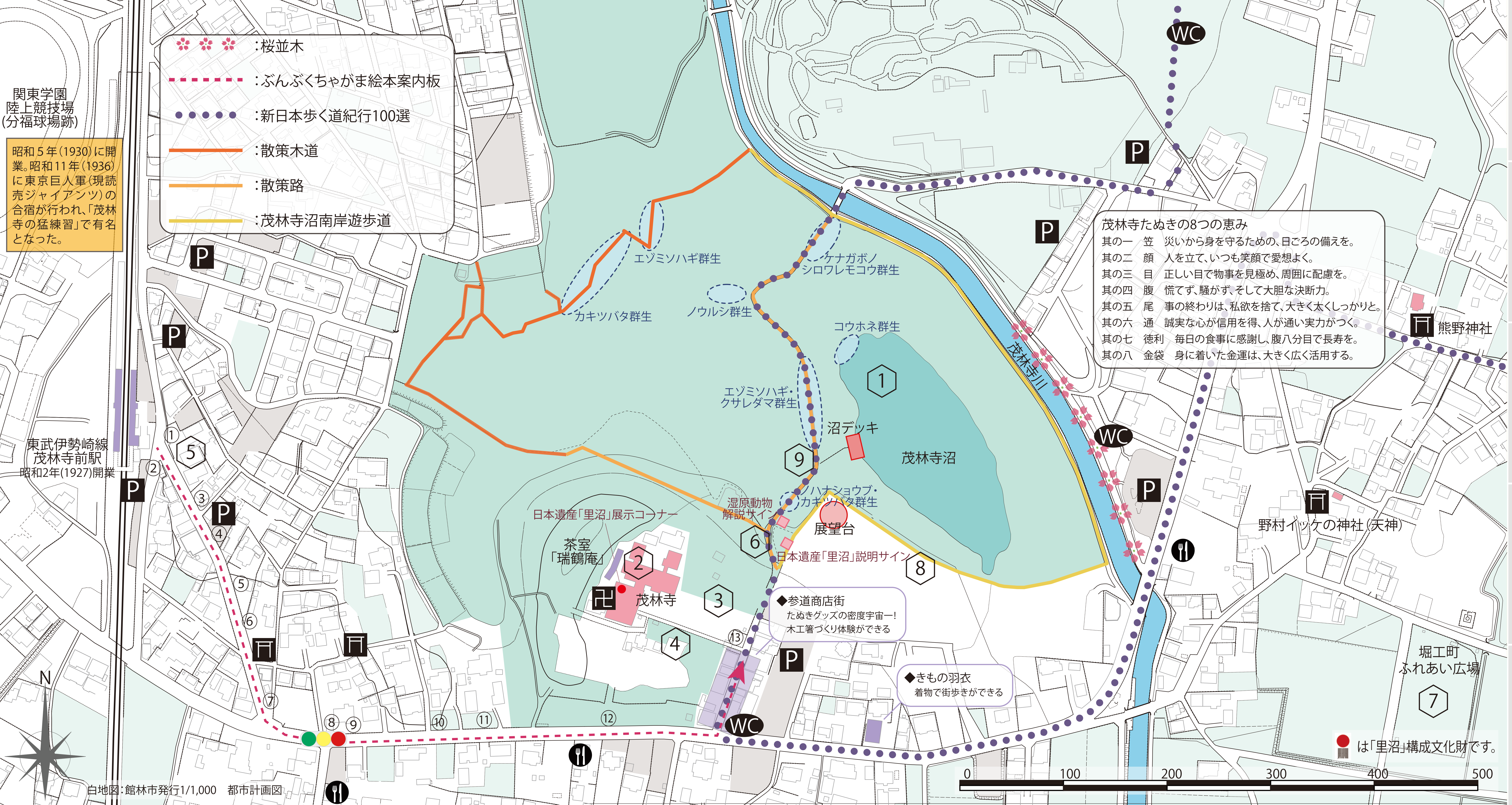
日本遺産 JAPAN HERITAGE

日本遺産「里沼」を歩く①
―「祈りの沼」・茂林寺沼散歩―

編集・発行　館林市「日本遺産」推進協議会　歴史文化部会
（館林市日本遺産プロジェクト）
〒374-0018　群馬県館林市城町３番１号
TEL　0276-71-4111
編集協力　一般社団法人TDU建築設計事務所
館林観光ボランティアガイドの会
ぶんぶくガイドの会
図版提供　館林市史編さんセンター
写真提供　中山健一　大朏輝一　群馬県館林土木事務所
発 行 日　令和３年（2021）10月15日

※本パンフレット記載内容の無断転載を禁止します。

SATO-NUMA.JP


関東学園
陸上競技場
(分福球場跡)
東武伊勢崎線
茂林寺前駅
昭和2年(1927)開業
P
WC
熊野神社
野村イッケの神社(天神)
茂林寺川
エゾミソハギ群生
カキツバタ群生
ノウルシ群生
ケナガボノ
シロワレモコウ群生
コウホネ群生
エゾミソハギ・
クサレダマ群生
沼デッキ
茂林寺沼
ノハナショウブ・
カキツバタ群生
湿原動物
解説サイン
展望台
日本遺産「里沼」展示コーナー
日本遺産「里沼」説明サイン
茶室
「瑞鶴庵」
茂林寺
堀工町
ふれあい広場
1
2
3
4
5
6
7
8
9
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
N
0
100
200
300
400
500
白地図：館林市発行1/1,000　都市計画図

🌸🌸🌸 ：桜並木
▬ ▬ ▬ ：ぶんぶくちゃがま絵本案内板
● ● ● ● ● ：新日本歩く道紀行100選
━━━ ：散策木道
━━━ ：散策路
━━━ ：茂林寺沼南岸遊歩道

昭和５年（1930）に開業。昭和11年（1936）に東京巨人軍（現読売ジャイアンツ）の合宿が行われ、「茂林寺の猛練習」で有名となった。

茂林寺たぬきの8つの恵み

其の一	笠	災いから身を守るための、日ごろの備えを。
其の二	顔	人を立て、いつも笑顔で愛想よく。
其の三	目	正しい目で物事を見極め、周囲に配慮を。
其の四	腹	慌てず、騒がず、そして大胆な決断力。
其の五	尾	事の終わりは、私欲を捨て、大きく太くしっかりと。
其の六	通	誠実な心が信用を得、人が通い実力がつく。
其の七	徳利	毎日の食事に感謝し、腹八分目で長寿を。
其の八	金袋	身に着いた金運は、大きく広く活用する。

◆参道商店街
たぬきグッズの密度宇宙一！
木工箸づくり体験ができる

◆きもの羽衣
着物で街歩きができる

● は「里沼」構成文化財です。

① 茂林寺沼及び低地湿原

昭和35年（1960）に群馬県天然記念物に指定された。
カキツバタ等の湿原植物が生息している。低地湿原は関東地方でも数少ない貴重なもの。

② 茂林寺(分福茶釜)

和尚に化けたむじな（たぬき）が茶釜をもたらし、福を与えたという伝説があるお寺。茂林寺沼の畔に「祈りの場」として開山した。
かつては本堂や山門の茅葺屋根に茂林寺沼のヨシを使用していた。

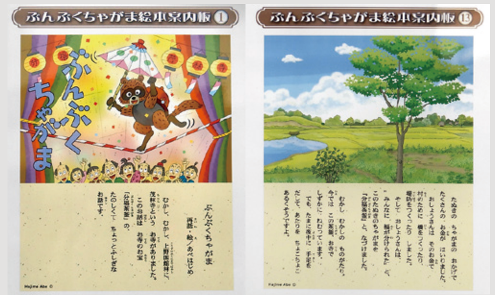
③ 茂林寺のラカンマキ

茂林寺の本堂右手にある巨木。
樹高14m、幹回りは2.85m、枝は9m葉先が尖っているため、魔除けの意味があると言われている。
応永33年（1426）に植えられたと伝えられている。

④ 茂林寺のたぬき像

茂林寺の参道に並ぶ22体のたぬき像。（境内には全25体）
季節によって浴衣などの衣装に変わり、何度訪れても飽きない観光名所。
台座に記された俳句は、市内の俳人前山巨峰が詠んだ。

⑤ ぶんぶくちゃがま絵本案内板


ぶんぶくちゃがま絵本案内板 ①
ぶんぶくちゃがま
ぶんぶくちゃがま絵本案内板 ⑬

東武鉄道茂林寺前駅から茂林寺までの約660mの歩道上に設置されている、全13枚の絵本案内板。
※地図上の①～⑬

⑥ 巌谷小波（いわやさざなみ）の詩碑

巌谷小波は明治期の童話作家。「ぶんぶく茶釜」を童話化し、明治27年（1984）に刊行した『日本昔噺』の中で発表。
童謡の一節が記された詩碑が、昭和34年（1959）に建立された。

⑦ 堀工町のどんど焼き

江戸時代から続く行事で、茂林寺近くの熊野神社の神事として行われていた。現在は堀工町の地区行事。茂林寺沼に自生するヨシなどを使いどんど焼きのヤグラを組む。

⑧ 茂林寺沼南岸遊歩道

茂林寺沼南岸には遊歩道が整備され、健康ウォーキングを楽しむことができる。遊歩道は湿原内の園路・木道と直結しており、沼を一周しながら、希少な動植物を見る事ができる。

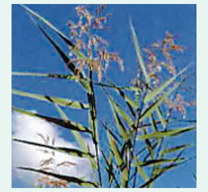
⑨ 館林かるた

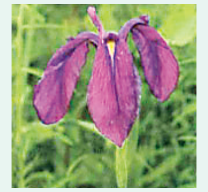
館林の歴史や文化に関するかるた。読み札は市民から、絵札は市内の小中学生から公募された。
「のどやかな
　野鳥の森と　低地湿原」
「茂林寺の
童話で名高い　文福茶釜」

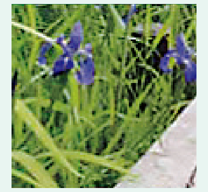
ガイド団体

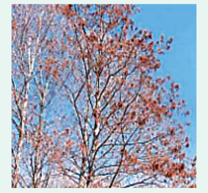
祈りの沼：茂林寺沼を詳しく知りたい方に向けた、ガイド団体による解説案内。
■館林観光ボランティアガイド
尾花会長
(Tel:0276-75-6336)
■ぶんぶくガイドの会
中村会長
(Tel:0276-74-8489)

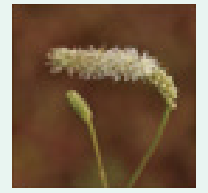
茂林寺沼湿原で見られる植物と生き物

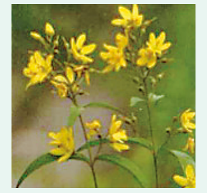

ヨシ

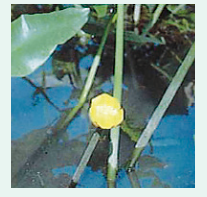

ノハナショウブ

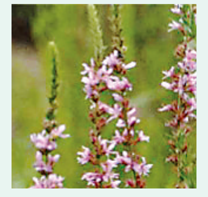

カキツバタ

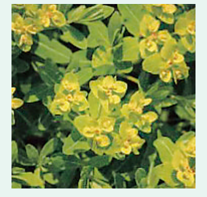

ハンノキ

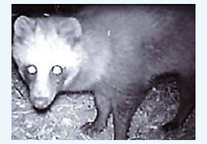

ケナガボノシロワレモコウ

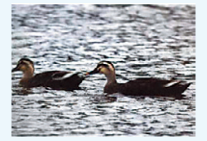

クサレダマ

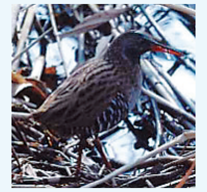

コウホネ

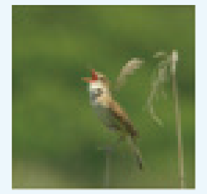

エゾミソハギ

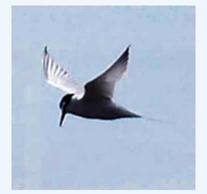

ノウルシ

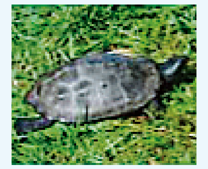

タヌキ

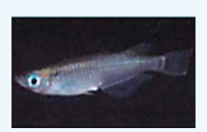

カルガモ

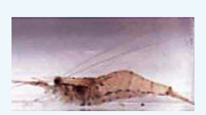

クイナ

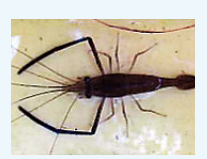

オオヨシキリ

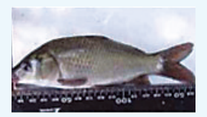

コアジサシ

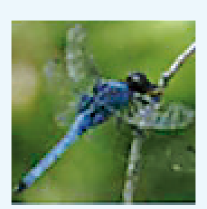

クサガメ

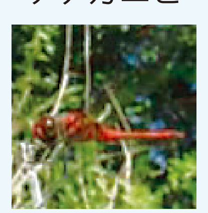

メダカ


スジエビ


テナガエビ


コイ


オオシオカラトンボ


ナツアカネ